

Ryota
Yamamura

— 大学は外国語学部で学び、教員免許も取得されました。

子どもの頃から海外の国や文化に興味があり、英語を用いる職業に就きたいと考えていました。大学一年の夏休みには、オーストラリアへの短期留学も経験しました。

教員免許を取得することは、入学前から決めていました。母は幼稚園、いとこが小学校の教員だったので、身近に感じる職業でした。

当時、すでに音楽活動を始めていましたが、「人と関わりたい」、「一緒に何かを作り上げたい」という思いを叶えるという点で、教職と音楽に共通点を感じていました。

表紙の人インタビュー

教育実習の経験が背中押してくれた

歌手 山村隆太さん

関西外国語大学
外国語学部 2007年卒業

— 教職と音楽活動、進路に迷いはありませんでしたか？

とても迷いました。音楽を続けたいと思う一方、教職の道も諦めきれないでいました。親からは、「音楽の世界は甘くない。いつまで続けるつもりなんだ」と言われ、常に気持ちは揺れ動いていました。教育実習は母校の中学校で行いました。緊張から毎授業ごこちなくて、生徒の反応も

イマイチ。「山村君ちょっと……」と授業終わりに呼び出され、アドバイスを受けるという繰り返しでした。どうにかしなければと、担当教科が英語だったこともあり、ギター弾き語りでビートルズなど英語の歌詞の曲を歌ってみました。すると、それまでとは打って変わって、子どもたちの反応が良くなったのです。「楽しく英語に触れ合ってもらいたい」との自分の思いが伝わったと、改めて教職の魅力を感じた瞬間でした。

— 最終的に音楽でいくと決断したきっかけは？

教育実習の最終日、「今日が最後の授業だから、好きに展開していいよ」と指導教員から指示がありました。それならばと、「夢に向かって走れ」という思いを込めたオリジナルソングを歌いました。すると、感情がふっとあふれ出したのか、普段は絶対に泣かないような生徒が、目に涙を浮かべていたんです。

それぞれ別の人生を歩む者同士が、一つの歌を通して、

感動を分かち合う感覚。教壇もステージも、子どもや観客からは一段高いところにありますよね。でも音楽はその距離を一瞬でゼロにしてくれるんです。音楽の力を改めて感じ、背中を押されました。

— 教職志望の学生に向けて、メッセージをお願いします。

「正しいことを教えなくてはいけない」と気を張りすぎないでください。100人の教員がいれば、100通りの教え方があっていいと思うんです。僕の場合は、音楽を取り入れましたが、時には教員と子どもという枠を取っ払ってみてください。「先生こんな一面あったんだ」と、子どもたちに思ってもらえるようになってもらいたいと思います。

Profile

ロックバンド「flumpool」のボーカリスト。2008年デビュー。17年末より自身の歌唱時機能性発声障害で活動休止したが、19年1月活動再開。現在、全国ツアー中。5月22日にニューシングル「HELP」をリリース。

